

ISSJ ニュース

ISSJは国際福祉機関として子どもと家族を支援しています



国際離婚にともなう
面会交流支援 (外務省委託事業)



子どもが家庭で育まれるための
養子縁組支援



在日難民・難民申請者への
相談支援 (UNHCR パートナー団体)

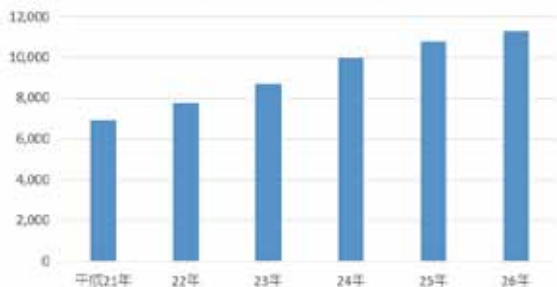
日本国際社会事業団 (ISSJ) は子どもの福祉を第一に、1959 年より社会福祉法人として活動をしています。個人・家族が国境を越えて移動したときに生じる問題について、社会福祉の立場から取り組んでいます。

社会福祉法人日本国際社会事業団 (ISSJ) 〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶の水 K&K ビル 3F Tel: 03-5840-5711

ISSJ ニュース (インターカントリー No.50) 目次

- 面会交流支援
子どもが安心して過ごせるために (p.1-2)
- サヘル・ローズさんインタビュー (p.3-5)
- ヨーロッパの難民受け入れ ドイツ・ベルギー視察報告 (p.6)
- カンボジア寺子屋支援近況・チャリティイベントお知らせ (p.7)
- ごあいさつ・スタッフ紹介 (p.8)

面会交流調停申立件数(司法統計)



厚生労働省の人口動態統計によると、平成 26 年の離婚件数は全国で 22 万 2 千組。結婚件数とともに減少しています。一方、司法統計では全国の面会交流の調停申立て件数が平成 25 年に初めて 1 万件を超え (平成 26 年は 1 万 1,312 件)、平成 21 年の 6,924 件と比べて約 1.5 倍となっています。

1980年ハーグ条約

ハーグ条約とは、オランダのハーグで行なわれたハーグ国際私法会議において締結された国際私法条約の総称。国際的な子の奪取*の民事上の側面に関する条約は、離婚・別居にともなう不利益から子を守るために、1980年に採択されました。日本は2014年に条約に署名し4月1日に発効しました。2016年1月の時点で、世界93ヶ国が締結しています。

* 国際的な子の奪取…一方の親の同意なく子どもを元の居住国から出国させることや、一方の親の同意を得て一時帰国後、約束の期限を過ぎて子どもを元の居住国に戻さないこと。

離婚・別居後の 子どものための面会交流

子どもが安心して過ごせるために

ISSJは、主に国際離婚のケースを対象に、子どもと同居をしている親 (同居親) と別居をしている親 (別居親) との面談や連絡調整、面会交流を行う場所の提供、ソーシャルワーカーによる面会交流の立会いなどの支援をしています。

面会交流とは、別居親と子どもが一緒に時間を過ごすことです。子どもが親と交流する権利を保障するもので、父母の話し合いや家庭裁判所での調停、または審判の申し立てにより頻度や実施方法が取り決められます。しかし、当事者間の葛藤が高く面会交流の調整が困難なケースも少なくありません。離婚・別居に伴う子どもの負担を最小限にし、面会交流が子どもの成長を助けるものとなるよう、子どもと父、母の意向を確認しながら、交流の場を調整することが求められます。(2ページへ続く)

離婚・別居後の 子どものための面会交流

ISSJの面会交流支援状況

1980年ハーグ条約（国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約）は、離婚・別居にともない国境を越えて子が父または母と会えない状況を改善するための、国際的な枠組みを定めています。ISSJは、外務省による1980年ハーグ条約にかかる面会交流支援事業の委託機関でもあります。最近では、民間団体の支援が届きにくい地域のケースや、面会方法が限定的であるため他の支援団体では対応が難しいケース、ハーグ条約の枠組みから外れた国際離婚のケースについても当事者からの問合せが増えていきます。

面会交流の進め方

申請書の提出を受けて、ソーシャルワーカーと双方の親との間で面会交流の方法や日程を調整します。子どもと暮らす同居親が相手に居所を知られにくい場合や、面会のため来日した別居親や子どもだけでは行きたい場所を決められない場合は、ソーシャルワーカーが交流場所や過ごし方の提案をします。

面会交流中、ソーシャルワーカーは子どもが親と安心して楽しく過ごせるようにサポートします。特に初日は親子ともに緊張して無口になることがあります。その際は会話の糸口を探すお手伝いをします。また国際離婚のケースでは、文化や言葉の壁が子どもと別居親との間に立ちただかることもあります。親子で話す言語が異なる場合は通訳をしたり、子どもだけでは説明できないこと（例えば日本の学校の行事）などについて、親に補足説明したりします。

面会交流後は、子どもも親も様々な思いを持ちます。そのため、父母それぞれと振り返りの時間を持ちます。また、交流後の子どもの様子も聞きます。子ども・父・母との間の新たな関係作りを見守りながら、こうした一連の流れを通して面会交流支援は行なわれています。

子どもがのびのび過ごせるように

子どもは言葉で表さなかったとしても、交流を通して期待や不安、気持ちの変化など、様々な影響を受けます。ISSJの面会交流支援では、申込み時に父母双方に「子どもがのびのびと過ごせる面会交流を目指す」ことをお願いしています。シンプルな目標ですが、面会交流の支援申請にいたるまでのそれぞれの親の思いを受けとめつつ、子ども自身が安心して過ごせるよう準備します。

今後、どのような支援が必要とされているのかを慎重に見極めながら、必要な支援を提供していきたいと考えています。
(榎本)

※ISSJが作成した面会交流の支援事例や「ウェブみまもり面会交流」の動画が外務省ハーグ条約室のホームページで公開されています。是非ご覧ください。

検索

外務省ハーグ条約室



養子縁組を支援した家族から

今年も近況を知らせる

グリーティングカードが届きました

毎年年末から年始にかけて、ISSJが養子縁組を支援した家族から次々と郵便が届きます。子どもたちの成長に驚くとともに、愛情いっぱいの家族の姿にソーシャルワーカーたちはいつも力を与えられています。

乳児院や児童養護施設で生活していた子どもたちにとって、『家族』は待ち望んでいた存在。しかしまったく新しい環境で、家族が家族になるまでの過程には様々な試練もあります。喜び、悲しみをともにしながら家族の一員となり、安心してのびのびとした子どもの表情に、子どもが家庭で育つことのかけがえなさを改めて知らされます。



インタビュー

子どもの思い 養親へのメッセージ

特集

サヘル・ローズさんインタビュー

同じ目線で

背伸びをせず

様々なメディアや舞台で活躍されているサヘル・ローズさん。同時に、ご自身が幼少時代を児童養護施設で過ごし、養母に育てられた経験を通して、子どもや家族にまつわる社会的な問題についてメッセージを発信されています。

ISSJは長年、子どもが家庭で育まれるための養子縁組を支援しています。この度はサヘルさんに、養子として育った子どもとしての思い、そして養親へのメッセージを伺いました。

— いろいろなお仕事に加え、子どもの問題にも深く関わっていらっしゃいます。どのようにバランスを取っていますか？

私はもともと人見知りで率先して前に出るタイプではありません。しかし、お仕事を通じて私の生い立ちなど多くの方に知ってもらった分、本来伝えたい子どもの問題に気付いてくれる人が増えると思うのです。また、今通っている施設の子どもたちが「お姉ちゃんこの間見たよ、面白かったよ」と言ってくれます。同じ環境で育った人が今前向きに頑張っている、私たちもやれると思ってもらえる。どんな問題に直面しても乗り越えることで次に行けるというメッセージを、仲間たちにも伝えられます。

— 将来、特にやりたい仕事はありますか。

「サヘルの家」という、子どもが帰れる場所をつくることです。施設ではなく、学校から家に帰ると誇りを持ってもらいたい。そこにちゃんと家という戻れる場所があって、そこで親として接したい。私は子ども（養子）として選ばれた。しかし、選ばれなかった三年間があるので、子どもにも悔しさや寂しさなどの葛藤があるのが分かります。ただ、受け入れるにしても、すぐにはお母さんにはなれない。それなりの時間もお金も必要なので、今は、そのために力をつけたいと思っています。

— サヘルさんの中では、仕事と社会活動がつながっていますね。

世の中を巻き込んで仕事をすることで、気付い

てもらえる。気付きを与えたい。寄付して下さって言ったことはありません。気付いた人が、次のステップに一步踏み出せるように、すべてをつなげていきたい。

ラジオや舞台のお仕事をさせていただいています。役者を続けているのは、自分の弱い部分をさらけ出せる場所、唯一自分に帰れる場所だと思っているからです。施設にいると感情を表に出せません。私は一番大事な時期に愛情に飢えて、自分の感情を言葉にできなかった。愛されていたのか、幸せになっていたのか、自分が他人とは違うかもしれないという気持ち。施設の子どもには、必ず『闇』があります。インナーチャイルドは多分みんなにあると思います。一般家庭で育つ以上に私たちのインナーチャイルドは強いと感じています。どんなにお母さんに愛されていても、消えないです。だから、小さなときから家庭で育つことは大切だと思っています。施設を否定しているわけではありません。周りの方は必死で関わってくださっている。しかしあれだけの人数で、一対一では関われない。それぞれの子どもにできることとできないことがある。家庭であれば親が、やっていいこといけないことを一つひとつ教え、また叱ってくれる。

取り残されたいろいろな思いが、反抗期を通り越して暴力に変わってしまう子もいます。『おねえちゃん！』ってボンッてたたかれたりする。愛情を求める行為が他の人には粗野・暴力と捉えられてしまう。私にはその一撃に詰まっている、言葉にできない複雑な思いが分かります。

サヘル・ローズさん
インタビュー

子どもの思い 養親へのメッセージ

ー 養子縁組でも養親さんと子どもの間に葛藤が生じることがあります。

うちもありました。周りから見ても、お母さんが子どもにきつく当たっている、と施設に引き戻されそうになったり。親は自分で育てようと一生懸命関わろうとしてくれている。しかしどんなに愛してくれていても、0歳から育てると7、8歳から育てるのはぜんぜん違います。親の努力がありながら、衝突もありました。最初は家族ができて嬉しい。その後は寂しくて、前は仲間がたくさんいたのに今は一人ぼっちと感じて、「ここにいたくない、あなたは嫌いだー」って言ったり。子どもは親の気持ちまで理解できない。すごく大変でした。

家庭養護の大切さ

ー 子どもが家庭で育つことの大切さを、どうしたら気付いてもらえるでしょうか？

施設にいる子どもたちの存在を伝える必要があると思います。難しい問題としてとらえるのではなく地域との交流の場、きっかけを提供しなければなりません。はじめは皆さん関わり方が分からない。傷に触れてはいけないうと遠のいてしまう。しかし一番大事なのは、ここにいるのは子どもであって、皆さんとおなじ人であるということ。たまたま家庭に恵まれなかった、野蛮で暴力的なのではなく、理解されたいというシグナルを出している。そういうことに気付いてあげることが大事だと思います。

彼ら、彼女らは、専門学校へ行くお金も自分でアルバイトしてつくらなければならない。保証人が必要となきもなれる人がいない。電気料金の支払い方もわからない。そういうことを一つひとつ教えてあげなければなりません。

ー 血のつながらない家族の形は、日本ではまだ抵抗があるようです。

最終的には、心と心がどうつながるかです。施設に暮らしていると、普通の子がしないことをすることがあります。食べ物を隠したりうそをついたり、自分を守るためにしてしまう。施設で生きるための防衛本能なので、それを理解して、一緒になおしていかねって根気づよく見守ってあげること大事です。私は母と出会い、母は私のために生きてくれている。私をここまで守ってくれた彼女に恩返しをしたいという思いがあります。

自分自身のルーツを求めて

ー 養子縁組では、養親さんが「あなたと私は血がつながっていないのよ」と子どもにいうテリング²のタイミングはとも難しいとされています。サヘルさんは最初から知っていましたか？

子どもたちは、どういう状況におかれているか、何となくわかります。施設で育っていると子どもに見えて精神面は（年齢より）大人です。私は思春期に改めてそういう場を設けられて、説明を受けました。書類を見せられて改めて突きつけられた。分かっていたんですが、やはり受け止めたときの痛みがありました。母も苦しんでいた。血のつながった親を見つけたときに、子どもが行ってしまうことの恐怖。

子どもは大体裕福な家庭に引き取られていて、自分はこんなに幸せになつたのに、実の親は苦勞して、申し訳ないという気持ちがあります。



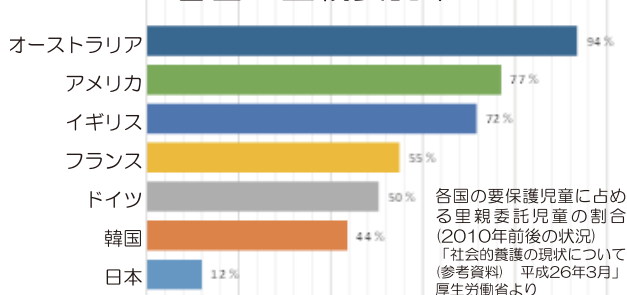
子どもの社会的養護・家庭養護

「社会的養護」とは、保護者のない児童や家庭環境上養護を必要とする児童などを、公的施設などで社会的に養護を行うことです。

厚生労働省の調査によると平成26年で公的支援の対象児童は約4万6千人、児童養護施設には約2・8万人が入所しています。また平成25年の調査では、養護施設在籍児童の59・5%が虐待を経験しています。

里親や小規模施設など、家庭の環境で児童を養育することを「家庭養護」といいます。全体として施設に措置される児童の数は減少傾向にあります。しかし、12年以上施設で暮らす子どもの数は増加しています。高等学校卒業後の進路を見ると、全高卒者の進学率が54・3%であるのに対して児童養護施設児は13・0%に留まっています（厚生労働省資料、平成22年5月1日現在の進路）。

各国の里親委託率



家庭で育てられない子どもは施設でという認識は、日本の社会の中でいまだ根強く共有されています。しかし近年は施設の小規模化と里親委託の推進が図られています。自治体や民間団体による努力や市民活動を通して、里親への委託率を30%以上まで伸ばしている地域もあります。

サヘル・ローズさん
インタビュー

子どもの思い 養親へのメッセージ

—ISSJにもルーツ探し^{※3}の問い合わせが多くあります。サヘルさんにとってルーツ探しとは？

自分の中に抜けている部分があつて、胸にある空白を埋めたいという思いがあります。自分のいた町は見つけられていません。母と話せているから良いのですが、過去の思い出せない記憶を探すべきなのか、知らなくてもいいことがたくさんあるのか…。

イランへは仕事で2年前に2回帰りました。母の家族にも会い孫のように思ってくださいています。

—行動したことで心境変化はありましたか？

埋まった部分はあります。空洞だったものが、和らいできた、という感覚。周りの方たちが協力してくださったというのがあります。

—今のお母様との関係も、長い時間をかけてつづて来たのですか。

はじめて母にありがとうと言えたのは中学3年の後半になってからでした。それまでは、何でもっと理解してくれないのだろう、仕事で忙しいことがわかっていても、何で家にいてくれないのだろう、と思っていました。母が頑張っていることに気付けなかった。

今は言われないと血がつながっていないことを忘れるくらいです。顔も似てきますし、食べ物好き嫌いも一緒になってきますし、不思議です。

養親へのメッセージ

—養親さんに、メッセージをいただけませんか？

母を見ていて、頑張らないでほしい、強がらないでほしいなと思っています。母は私を引き取ってから

いつも笑顔でした。泣きたいこともたくさんあっただろうに、弱さを見せなかった。母は強い人だと思っていた。しかし中3になり、母がひとり泣いているところを見たのです。その時はじめて、彼女は彼女なりに苦しんでいて、一緒に生きてくれていると思いました。

一生懸命わがうとして努力しているのにうまくいかなくて、すぐくつらく苦しいとき、子どもに同じ目線で苦しい、悲しいと、感じることをたぶん伝えるべきだと思います。急に親になろうとしなくていいし、子どもから親にしてもらえと思うからはじめは、そばにいて話を聞いてくれる人でいい。すぐに親になるのは無理です。子どもが親を選ぶわけではない。どちらかというと、「この家族に入りたい」という気持ち。まっすぐの好きとは違うと思います。

—受け止めることが大事ですね。

子どもの心をこじ開けるのではなくて、本人がそいつと扉を開けて近寄ってきてくれる、そのくらいスペースを与えたほうがいいと思いますね。

—お話を聞いて子どもに少し近づけた気がします。

ISSJさんはいろいろな活動をされている。壁にぶつかった人の間に入るわけだからいろいろな経験をされると思います。世の中にこういう問題があつて、苦悩がある。きれいなまとめ方をしなくてもいいのでリアリズムを発信してほしい。弱さを含めた人間的な部分を提示してほしいなと思っています。



*1 インナーチャイルド (inner child) : 「内なる子ども」。潜在意識に残る子ども時代の記憶や感情。大人になった時の思考や行動に影響を与えるとも言われる。
*2 テリング (telling) : 養子の子どもの、養子縁組の事実を伝えること。真実告知とも言う。
*3 ルーツ探し : 養子縁組された養子の出自を調べること。本人が行うほか、養親または親族などが行う場合もある。

インタビューを終えて

様々なお仕事と同時に、子どもたちのために積極的に社会へ向けてメッセージを発信されているサヘルさんの姿に、私たちも勇気をいただきました。私たちもサヘルさんを通して、なかなか耳にできない子どもの声を聞くことができたように感じました。サヘルさんが代弁してくださった子どもたちの思いを胸に仕事に励みたいと思います。

インタビュー・編集 石川美絵子 榎本裕子

インタビュー日時

2016年2月12日

東京・浜松町



サヘルさんよりメッセージを頂きました

EUの難民受け入れ

2月21日～29日

ドイツ・ベルギー視察報告

笹川平和財団の事業を受け、ドイツ・ベルギーに難民受け入れの調査に行きました。訪問地はミュンヘン、ブリュッセルなど8都市です。昨年夏よりシリアを中心に大量の難民がヨーロッパに押し寄せ、「難民危機」と呼ばれました。おぼれた子どもの映像やパリ同時多発テロなどの事件が社会を揺るがし、難民に対する世論は二分化していると言えます。

実際に行くと、昨年百万人を受け入れたドイツでは表向きには何の混乱も見られませんでした。難民で溢れかえるミュンヘン中央駅を半ば期待していました、あっさり裏切られました。しかしレセプションセンターには大勢の難民がいて、元自動車工場の敷地に、約8百人の難民が一時滞在していました。倉庫のような大きな建物に2段階ベッドが所狭しと並び、独身男性が収容されています。家族や女性は別の棟に居住していました。寄付はたくさんあるらしく、子どもたちが乗り回している自転車は思いがけず立派です。難民たちはここで登録された後に各地域に振り分けられ、定住施設で暮らします。

いくつかの都市で福祉団体を訪問しました。ドイツでは国の福祉を民間団体（主要6団体）が担い、国の制度がそれを補完しています。各団体の上層部は州政府・連邦政府などと政策を協議しま

す。地域レベルでは、ケースワーカーが高齢者、障害者、家族などに福祉サービスを提供しています。難民の定住支援もそうした仕組みの中で行なわれます。今回はカリタス、赤十字、AWOの3団体からお話を聞きました。これらの組織は政府やEUの資金で運営され、寄付も潤沢です。ISSJとは比べものになりませんが、ソーシャルワーカーの悩みは共通で、難民支援の難しさや援助技術の向上、スタッフのケアなど話は尽きませんでした。

ベルギーでは、ブリュッセル自由大学で開催された2日間のシンポジウムに参加しました。ドイツだけではなくEUレベルで難民問題にどう対応するのか、1つの政策だけでは解決できません。シリア問題、国境管理、法律の見直し、加盟国間の協力、データ共有など、さまざまな視点で検討されました。

全体を通じて、難民保護が法的保護にとどまらず社会統合が重視されていることが印象的でした。受け入れた難民が経済や社会保障を圧迫しないよう、早急に生活再建する必要があります。言語教育や職業訓練の整備のため、次々と法改正が進められていました。社会の二極化は問題ですが、難民問題を自分の問題として人々が真剣に考え、議論する社会、難民の社会統合を推進する政府の対応をとて羨ましく感じました。

（事務局長 石川美絵子）



ドイツ・パダーボン カリタス事務所にて



訪問先リスト（2016年2月）

- 21（日）ミュンヘン：一時収容施設
- 22（月）ニュルンベルク：ドイツ連邦移住難民局、ドイツ赤十字
- 23（火）ベルリン：FES財団
- 24（水）ベルリン：連邦議会、ドイツ赤十字本部、AWO難民キャンプ
- 25（木）ブリュッセル：UNHCR、EU委員会
- 26（金）ブリュッセル自由大学シンポジウム
- 27（土）ブリュッセル自由大学シンポジウム
- 28（日）ケルン：難民雇用主インタビュー
- 29（月）パダーボン：カリタス

カンボジア・寺子屋支援 近況



英語版のパンフレットより

The Achievement

- 7 students finished the vocational training school
- 2 students in high school
- 6 students in secondary school
- 32 students in primary school

(March, 2016)

He went to Pteah Nhor Nhim and also finished the vocational training school. Now he works as a bartender.

プノンペン市内のウナロム寺院内で、ISSJが給食付きの寺子屋にここにこの家（プテア・ニョニム）を開いて7年が経ちました。約200人の子どもたちがここで学び、7人の子どもたちは職業訓練校を経て就職することができました。寺子屋はカンボジア人によるNGOとしての活動開始準備をしています。資金面でもカンボジア人によって運営できるよう、まずはより多くの人に子どもの直面している問題と、活動の目的を理解してもらう必要があります。現在はパンフレットの作成など情報発信に取り組んでいます。

マネージャーのVongさんより『日本からの支援に感謝しています。これからも子どもたちが学び自立していく姿を見守りたい』というメッセージ。皆様にもカンボジアの子どもたちを引き続き見守っていただけますよう、お願い申し上げます。（重藤）

★facebookで活動報告しています: "Pteah Nhornhim"

これまで国際ボランティア貯金配分金や、大阪コミュニティ財団、ひろしま祈りの石国際教育交流財団からの助成、そして個人・団体からのご寄付により寺子屋を運営することができました。改めてここに感謝申し上げます。

第72回 ISSJ チャリティ映画会・バザー エール!

原題: La Famille Bélier
2014年 / フランス映画 / 105分 / フランス語
(C) 2014-Jerico-Mars Films-France 2
Cinéma-Quarante 12 Films-Vendôme
Production-Nexus Factory-Umedia

2016年6月4日(土)

上映開始時間 ①11:00 ②14:30 ③17:30

*10時開場。10:00~17:30 バザー同時開催。

日本教育会館3階 一ツ橋ホール

参加券 1200円(全席自由・前売制)

この度の映画会は初めての土曜日開催です。ご家族、ご友人、お知り合いの皆様とお誘いあわせのうえ是非ご来場ください。参加券お申し込みはISSJ事務所まで。神保町の岩波ホールやインターネット(イープラス)でもご購入できます。

第71回映画会バザーご報告

昨年10月16日に開催された第71回映画会バザー。雨天にも関わらず900名以上の方にご来場頂きました。上映した映画『チョコレートドーナツ』も、胸に響く映画だった、と好評をいただきました。参加券のご購入やご寄付、バザーへのご協力をあわせて、2,633,912円のご支援を頂きました。ご協力いただいた企業・団体、個人の皆様へ、改めてここに御礼申し上げます。ご協力金はISSJの国際福祉活動のために活用させていただきます。

今回は初めて『おかし屋ばれっと』のバウンドケーキやクッキーを販売。好評につき次回6月4日も出店します!



おかし屋ばれっととは、東京・恵比寿にある手作りのお菓子店。知的に障がいのある人たちが、製造から販売までかかわっています。

無料で簡単に活動を
支援して頂けます! gooddo

One clickでできるご支援 gooddoははじめました!
「gooddo」のISSJページへアクセス ⇒ <http://gooddo.jp/gd/group/issj/>

● 毎日のクリックでISSJを応援

ページを下の方へスクロールすると大きな赤い「応援する!」ボタンがあります。応援する! ボタンをクリックするだけでポイントが貯まり、ISSJを無料で支援することができます。
※応援は1人1日1回までです。

● 楽天の買い物でISSJを応援

issjのgooddoページ右下の楽天バナーより楽天でお買い物をしていただくと、金額に応じた支援金がissjへ届けられます。



ボランティア紹介 Ms. Daphne Aronson

ダフネ・アロンソン



I have been volunteering at ISSJ since July 2015, primarily assisting with the translation of Japanese documents into English. I am very grateful for this opportunity to work with an organization whose mission of helping multi-national children and families resonates with me deeply. Although I cannot begin to fathom the difficulties faced by those served by ISSJ, my own experiences as a three-time foreigner (from Korea to Australia, the U.S. and Japan) and now as a mother of two children have motivated me to want to help others. In these past 5 months at ISSJ, I have been humbled and inspired by the tireless dedication of its professional staff, as well as the deep commitment of other volunteers. Thank you again for welcoming me to this beautiful community.

《日本語訳》

私は2015年7月から主に日本語から英語に翻訳するお手伝いをボランティアで行っています。様々な国籍の子ども達や家族を支援するというISSJの活動目的に深く共感し、この団体で働く機会を得られたことに感謝しています。

ISSJが支援する人々が直面する困難を理解することは到底できませんが、私が韓国からオーストラリア、米国そして日本で外国人として暮らした経験と二人の子どもの母親であることが、人の役に立ちたいというきっかけになっています。この5か月間、ISSJの専門的知識を身につけたスタッフの根気強い献身的な取り組みとボランティアの方々の真摯な活動に頭が下がるとともに感化されてきました。このような素晴らしい団体で働くことができ感謝しています。



新事務局長からごあいさつ



昨年7月より事務局長に就任いたしました。日々研鑽し、少しでもお役に立てるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

石川 美絵子

このたび、ISSJのニュースレター・インターカントリーは50回目の発行を迎えました。内容を増やし紙面を一段階大きくしました。

サヘル・ローズさんのお話を聞き、ISSJが支援のなかで見出す社会的な課題やストーリーを伝える場として、ニュースレターの役割を考えさせられました。まだまだ未熟ですが、メッセージを言葉にのせて伝える技術を磨きたいです。ご意見をお寄せいただけたら幸いです。(ニュースレター編集部)

ISSJ映画会バザー ボランティア募集



年2回のチャリティ映画会バザーに関わっていただけるボランティアを募集しています。ISSJ 事務所までお気軽にお問合せください。ご協力お待ちしております。

●企画準備

日時： 毎週金曜日の10～16時のご都合のよい時間

場所： ISSJの事務所（御茶ノ水駅から徒歩5分）

内容： 案内や参加券発送、バザー品の準備など

●当日ボランティア

チャリティバザーの販売係。今回は6/4。神保町・一ツ橋ホールです。映画『エール！』もご覧いただけます。



●手作り品のご提供

手作りのお菓子や手芸品をご提供いただけませんか？チャリティバザーで大切に販売させていただきます。

ISSJの国際福祉事業をご支援ください

●会員になる

年2回のニュースレター、事業報告書、イベント情報をお送りいたします。ISSJまでご連絡先をお知らせください。

個人・グループ会員 年1口：5,000円（何口でも）

団体会員 年1口：50,000円（何口でも）

●寄付する

ご寄付は税制上の控除を受けることができます。寄付領収書をお送りするため、ご住所・ご連絡先をお知らせください。

▶ 会費・ご寄付のお振込先

・三菱東京UFJ銀行 中目黒支店 普通 0397932

・ゆうちょ銀行 00190-7-64911

加入者名 社会福祉法人日本国際社会事業団

●ネットを通して応援する

NPOを無料で簡単に支援できる「gooddo(グッドウ)」では、皆さまのいいね！やクリックなどのアクションが活動支援金となります。
<http://gooddo.jp/gd/group/issj/>

●チャリティバザー販売商品を寄付する

ISSJチャリティバザーで販売する品物を募っています。新品の不用品や、地方の特産品などをご寄付いただけないでしょうか。次回は6月4日のチャリティ映画会バザー。神保町・一ツ橋ホールで開催です。

インターカントリー第50号 2016年3月15日発行

発行：社会福祉法人 日本国際社会事業団

International Social Service Japan (ISSJ)

発行責任者：常務理事 大森邦子

発行所：〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2

御茶の水K&Kビル 3F

TEL: 03-5840-5711 (代表) FAX: 03-3868-0415

E-mail: issj@issj.org

URL: www.issj.org

